

## 白鷺〈しらさぎ〉山の伝説（三木市鳥町）

鳥町の南、数百メートルのところ、こんもりと木のしげった小山がありました。これを白鷺〈しらさぎ〉山と呼んでいました。

それは遠い奈良時代のことでした。久留美〈くるみ〉の皇垣内〈おがち〉という所に日本武尊〈やまとたけるのみこと〉のおばさんが住んでおられました。ある年、武尊が西国の賊〈ぞく〉を討つとき、別れのいとまごいをするために、立ちよられました。その時、一羽の白鷺〈しらさぎ〉が武尊の道案内をして飛んできて、その森にとまって羽〈はね〉を休めました。それで村人たちは、白鷺をたいせつにあつかうようになり、その小山を白鷺山と名づけ、そこに白鷺神社をつくりました。

この神社は、その後、住吉神社の境内〈けいだい〉に移されました。山の直径〈ちょっけい〉は約十七間（約三十メートル）あったといいますが、今も残っているそうです。白鷺かどうかわかりませんが、最近まで青田のあぜに立っているのが見られました。

青い稲が風にそよぐところに立つ、まっ白な姿はほんとうに美しい絵でしたが、やがて伝説〈でんせつ〉の中だけにのこることでしょう。

